

玉川教育フォーラム 2012

現代の教育に生きる大正新教育の思想と実践

—小原國芳と千葉命吉に焦点をあてて—

日時： 2012年 11/11 [日] 13:00～15:00

※玉川大学コスモス祭期間中

会場： 玉川学園中学年講堂

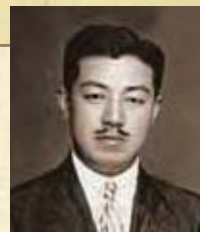
参加費無料

※事前のお申し込みは必要ありません。当日は直接会場へお越しください。

プログラム

1 「大正新教育と八大教育主張講演会」

解説 森山賢一 玉川大学教師教育リサーチセンター長
玉川大学教育学部教授



千葉命吉

2 「小原國芳と千葉命吉を語る—その教育思想と実践の真髓」

堀松武一氏 東京学芸大学名誉教授
石橋哲成 学校法人玉川学園理事・玉川大学教育学部教授
司会 長野 正 玉川大学教育学部長・教授
玉川大学大学院教育学研究科長・玉川大学通信教育部長

小原國芳

大正10年8月、新教育運動の最高潮を示す「八大教育主張」講演会が東京高等師範学校で開かれ、翌年1月発行。4月に8版を数え、その主張は燎原の火の如く全国の教育現場に広まった。



3 「大正新教育の教育思想と実践から今後の教育を考える」

小原芳明 学校法人玉川学園理事長・玉川大学学長

お問い合わせ

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL:042-739-7097
E-mail: t-menkyo@tamagawa.ac.jp

大正期は、明治以降に整備された近代公教育制度や学校教育に対する批判が強まった時期でした。当時の教育者たちは、硬直化した公教育制度や画一化した学校教育を改善するため、新たな教育のあり方を追及していました。その特徴は、子どもの個性や自主性を重視し、その活動性を考慮した教育の確立にあったといえます。具体的には、子どもの体験、労働、作業などを教育に取り入れ、創造性や積極性を引き出そうとする実践が展開されました。この時期の革新的な教育実践を「大正新教育」「大正自由教育」と呼びます。大正新教育の盛り上がりを象徴する出来事が、1921年(大正10年)に開催された八大教育主張講演会です。この講演会では8名の講演者が登壇し、それぞれ特色ある教育論を主張しました。聴講者は主催

者の予想を大きく超え、3,000名を超える人々が集まったといえます。

周知のように、本学園創立者の小原國芳は、この講演会に登壇し「全人教育論」の演題で自らの教育論を世に問いました。さらに、この「全人教育」の理想を実現するために創設された本学園も、大正新教育の系譜に位置づく学校であるといえます。本学園と縁の深い「大正新教育」は、現代の教育のあり方や今後の教育の方向性を探るうえで重要な教育的遺産となっています。貴重な教育の遺産を未来へと受け継ぐために、我々は大正期の教育から何を学ぶことができるのか、本フォーラムでは、「大正新教育」の担い手のうち、小原國芳及び千葉命吉に焦点をあて、その教育的特質や意義を皆様と共に考える機会にしたいと思います。



小原國芳 野外授業(昭和初期)



小原國芳 修身の授業(大正9年)



「赤い鳥」創刊号(大正7年)

